

参考文献
 ・三省堂編修所編『季節を読み解く 暦ことは辞典』三省堂
 ・鈴木章生『年中行事を体験する』中央公論新社
 ・村松明編『大辞林』第二版 三省堂
 ・『世界大百科事典』平凡社編 平凡社
 ・『明治廿七年略本暦』神宮司序

春夏秋冬それぞれにまとめました。
 「七十二候（しちじゅうにこう）」と「年中行事」についても、
 『旧暦のしおり』では、この「二十四節気」と「雑節」のほかに、

区切りの日で、季節の移り変わりを知る目安になります。
 一部も掲載されています。こちらは旧暦の時代から使われていた、「二十四節気（にじゅうしせつき）」と「雑節（ざつせつ）」の
 上記の「立春」や「立夏」などを含む
 『ほぼ日手帳2007』には、

2007年の日付を元にしていきます。
 ※区切りとした「立春」「立夏」「立秋」「立冬」は、

- ・ 春 新暦 2月4日～5月5日（立春～立夏の前日）
- ・ 夏 新暦 5月6日～8月7日（立夏～立秋の前日）
- ・ 秋 新暦 8月8日～11月7日（立秋～立冬の前日）
- ・ 冬 新暦 11月8日～2月3日（立冬～立春の前日）

このしおりでは、四つの季節を以下のように区分しています。



● 二十四節気

太陽のめぐる1年（1太陽年・1回帰年）を、
 季節ごとのちがいを計算にいたれうえて、

24にわけて設定されたもの。

24の区切りそれぞれには「啓蟄（けいちつ）」や

「小雪（しょうせつ）」などの名前がついています。

こちらは、太陽の運行を元にした区切りなので、

現代のカレンダーでも、旧暦でも「時期」は一緒です。

ちなみに、旧暦では二十四節気のうちの「雨水」を含む月を

「正月」とするようには、月名と二十四節気関連づけられています。

■ 七十二候

「二十四節気」の間隔、約15日間を、さらに約5日ごとに

「初候（しよこう）」、「次候（じこう）」、「末候（まごう）」と

3つの期間に区切ったものです。

たとえば、「春分」は初候が「春始集（すずめはじめてすくさう）」、

次候が「桜始開（さくらはじめてひらく）」、

末候が「雷乃発声（かみなりすなわちこえをはこぶ）」

※このしおりでは江戸時代の、

宝暦五年（1755）～寛政九年（1797）に使われていた『宝暦暦』

とよばれる旧暦に記載されていた「七十二候」を元としています。

※漢字の読み方、書き方については、

しおりに記載されているもの他にも諸説あります。

月の形とその名前

夜空に上がる月には、形によって名前がついています。
 「満月」「三日月」などはポピュラーなものです、
 ほかにもいくつか名前がついているものがあります。

また、旧暦は、月の動きと連動しています。
 旧暦の「一日」（ついたち。正式には朔日と書きます）は
 かならず、新月ですし、「十五日」は、ほぼ満月です。
 月齢がわかれば、旧暦で「だいたい、いまは何日なのか」
 がわかります。（旧暦を算出する計算は複雑なので、
 すこし、ずれることもあります。）
 いまの暮らしでは、月明かりをたよりに何かをする
 ということはほとんどなくなってしまいましたが、
 電気のなかった旧暦を使っていた時代は、月の満ち欠けは、
 暮らしのなかで重要な意味を持っていたんですね。

● 新月【しんげつ】

旧暦の各月の最初の日の月の状態のことです。
 月が、地球に対して真後ろに太陽を背負う形となり、
 地球からはその姿が見えなくなります。
 この現象は朔（さく）と呼ばれ、
 朔が現れる日を朔日（ついたち）といいます。

● 三日月【みかづき】

旧暦で3日目に出る月だから「三日月」です。
 夕方の空に細く弓形に出る月。
 その前後の細い月のことも
 「三日月」ということがあります。

● 上弦の月【じょうげんのつき】

旧暦で7日～8日頃の月のことです。
 新月から満月になる中間頃の月のこと
 をいいます。月を弓に見立てると、
 月の沈むときに弦が上にむいていることから、
 この名前があります。



■ 雑節

二十四節気とは別に、季節の移り変わりの目安になる、

暦の上の日にちのことを行います。たとえば「上用（じょうよう）」や

「十八夜（はちじゅうはちや）」などのことです。

主に自然とかかわりのある仕事である

農業や漁業などに照らし合わせて設けられています。

「二十四節気」のよりにほぼ等間隔になつていない、

というところを「雑節」とよばれているのでしよう。

■ 年中行事

毎年特定の日にはちや時期におこなわれる行事のこと。

このしおりでは、旧暦での年中行事の日付を

「新暦」では何日にあたるか、というところを紹介しています。

たとえば、旧暦上で七月七日の「七夕（たなばた）」は、

「新暦」の8月19日にあたります。

いまでは新暦の日付で行われる行事も、

「旧暦」にあてはめてみました。

※このしおりでの年中行事の日付は、

一般的なものを紹介しています。

お住まいの地方によっては、

日付が違ふこともありますので

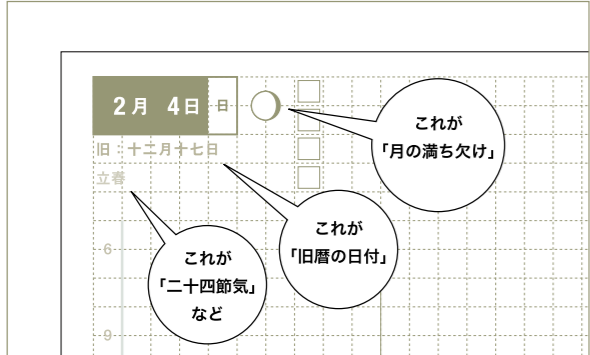
ご注意くださいいな。



このしおりについて

『ほぼ日手帳 2007』の“1日1ページ”の部分には、
 「旧暦の日付」と、旧暦に深い関係がある「月の満ち欠け」、
 「二十四節気」などが入っています。

< ほぼ日手帳の一日ページ（部分） >

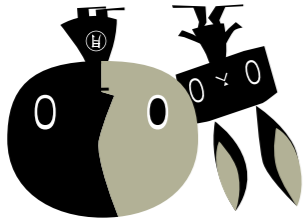


『ほぼ日手帳 2007』での「旧暦」とは、明治時代初期まで
 使われてきた日本の古い暦のことを指します。
 （明治初期に改定され、つまりいま私たちが普通につかっている
 暦のことは「新暦」と呼びますね。）旧暦での日付の決め方を、
 2007年にあてはめて作成されたものが、
 『ほぼ日手帳 2007』に記載されている「旧暦の日付」です。



© 2007 HOBO NIKKAN ITOI SHINBUN

協力：近松鴻二 挿し絵：玉村升一



旧暦のしおり

HOBONICHI TECHNO presents